

校長室だより～和光高校今昔 第24号 H26.10.17

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

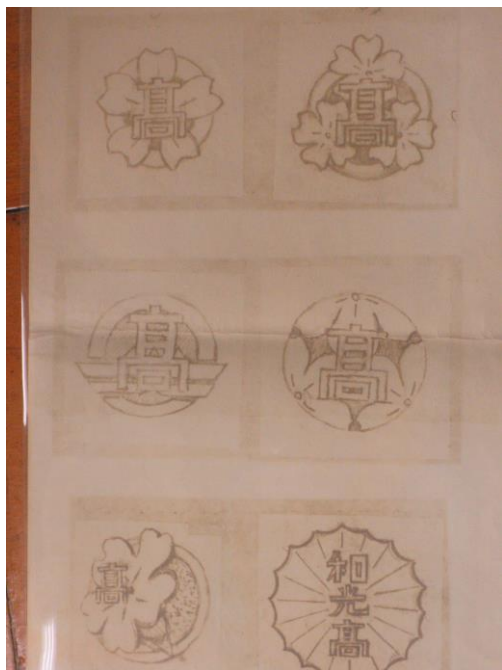
校章にまつわる話

和光高校の校章は開校と同時に制定されている。県花サクラソウを題材に蕨高校美術教師であられた野崎隆司先生のデザインによるものである。当時の市川校長先生が蕨高校校長と「新設和光」の開設準備委員長を兼務されており、日展に何度も出展されている優れた彫刻家でいらっしゃる野崎先生に白羽の矢が立ったのは必然だったのであろう。ちなみに「大カヤ」をモチーフにした与野高校の校章も野崎先生の意匠である。



職員・外来者玄関の鑄物で作成された校章 (平成17年度卒業記念)

ところで、校長室にある資料から実は校章の候補は最終的に6つに絞られたようだ。その資料は当時流行りの（コピーのない時代）いわゆる「青焼き」なのでかなり見づらくなっているが左がその原画である。



特にそれぞれの説明は記されていないが、左上はサクラソウと輪（和）がテーマになっており、花びらが放射状に広がる「光」をイメージしている。荒川対岸の田島ヶ原では、サクラソウの自生地が広がり国の特別天然記念物に指定されている。当然こちら岸でも清楚なピンクの花が春には彩りを与えていたのだろう。右上が採用される校章だが、サクラソウが3つ配置されそれらが輪（和）によって連鎖することでさらなる「知」の向上を期待している。旧地名の大和町のYも見られる。詳しくは「由来」をお読みいただきたい。左中は和光市の市章が「高」

の文字を包んでいる。地域に愛される学校というイメージを強く打ち出していると思われる。ちなみに和光市章は「光」の文字を輪が包むようなデザインである。右中はサクラソウを半分にして学校の周囲を覆っているデザインだ。自然に恵まれた立地条件と斬新なスタイルが特長であろう。同じく左下はサクラソウが未来に向かって広がる様子を示したユニークなデザインである。伸び行く和光高校の未来をイメージしていたのだろう。最後に右下だが、解釈はなかなか難しい。おそらくは「光」が未来や国際社会に広がっていく希望を昔の（大型カメラの）フラッシュ（閃光電球）で表現しているのではないかと思われる。以上はコメントが無いのいいことにした私なりの勝手な解釈である。新校に賭ける期待や思いが凝縮されたそれぞれに腐心の跡が見受けられる。

かくして校章は開校に合わせ制定された。第1回入学式には日の丸と並び校旗も掲揚さ



れている。校門も校歌も校舎も体育館も未完成の中、制服と共に唯一のアイデンティティとして1期生と来場された方々に披露された。もう一つ付け加えると開校以来数年間、最後の制帽のある県立高校として男子生徒たちの頭には燦然と校章が輝いていた。制服も改訂された現在徐々に縁遠くなっていく校章だが、現役生徒達には由来を推し量り、43年来の期待に応えるよう努力してもらいたい。

校章の由来

校章は、本県和光市の北側を流れる荒川流域に自生する県花のさくら草（さくらに似ているからさくら草と呼ぶ）を用いた。和光市の前身は大和町で大和からのイメージも考慮してデザインしたもので、和光の意味は知の光、放射状の花びらが光にも見え、可憐な花を三つ輪で（和で）まとめ、小さな叡智を協力によって大きな光とすることが期待される。



デザイン 野崎隆司先生 元埼玉県立蕨高等学校教諭

画歴 東京芸術大学卒業、日本彫塑会々員、県展審査員

日展出品八回、昭和48年文部省教育課程改定委員

（昭和47年度学校要覧より）